

吉田つとむ

町田市議会議員 無所属会派

提唱 1 若者育成が最優先

自分が取り組む重要な仕事は若者育成と考えてきました。学生が就業するにあたって、いかにスムーズに対応することができるか、経験者や先輩が積極的に支援をすることができるかが重要です。

提唱 2 経済の成長と技術の革新が最重要

元インターン生の一人は藻類(ミドリムシ)を研究し、起業して今はプライム市場に上場する事業家(株式会社 ユーグレナ社長)になっています。私は町田市の企業が開発した水耕メロン栽培システムの全国展開を注目しています。DX化では、個人情報を大切にする発想から生まれた電子投票システムの普及と電子教科書の積極的な導入を支持しています。

提唱 3 情報公開、情報開示

行政と議会の情報公開を限りなく追及する。他方で、政治家個人の自己開示も欠かせない。



吉田つとむの政治姿勢の特徴

○政党・業界・団体から完全に自由自立

支持政党なしの方々の代表として政党完全無所属、議会では最小グループにあっても、第35代議長にも選出される信頼と安定感を評価されてきました。

○良識ある保守主義

「良識ある保守主義」は、既存の社会体制を前提に法治主義による秩序を重視し、柔軟な思考にもとづいて議論をする立場です。日頃から少数意見にも耳を傾け、必要な時には、身を挺して市長や大政党グループのブレーキ役にもなります。



吉田つとむ発見動画チャンネル

掲載記事の紹介

○議会の質問と討論を紹介 (B面)

組織を持たない、支持政党を持たない人々の代表として、発言しています。

○DX企業を相次いで訪問 (C面)

電子デバイスのトップメーカー「京セラ」の電子投票システムの研究開発部門の事業所に招かれてシステムの講習を受けたり、ユニークな「登記簿図書館」を開発運用する情報通信ネットワーク社の佐野社長と面談しました。

○インターンシップと社会科の学習支援 (D面)

インターン生は大半が大学生ですが、今期2人目となる高校生を受け入れています。また、都心の中学校2年生の社会科学習で、訪問取材を積極的に受け入れました。



良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

市長の仕事に関して始点と終点の基準は（2025年第3定例会）

石阪市長は5期20年で大定例会前に引退表明

町田市は各部門の責任者である部長職に対して、部長の仕事に関する目標とその進捗状況を明らかにさせています。



それでは、市長は自分の仕事に関してその目標設定を行い、かつ、その進捗状況を明らかにしているのでしょうか。一般に考えられるものには、選挙公約（マニフェストと呼ばれることがある）あるいは毎年、第一定例議会冒頭で発表される「施政方針」があると思いますが、それ以外にたびたびおこなう記者会見での事業報告、あるいは町内会との「市政懇談会」での約束などが考えられます。

それらがどのような方法で発表されるのか、あるいはそれらの進展状況はどのようにして公表されていくのでしょうか。特に、事業や人事組織の改定などがどのようにスタートし、どの時点で目標達成（ルーチン化、あるいは設定事項の廃止）が行われるのかを明らかにしてもらいたいと思います。

市長は5期20年目を目前にしていますが、まだまだ、これからも新しい施策を打ち出したいと思っているのか、それともこれまでに打ち出した施策を自分で仕上げたいと思っているのか、こうした事柄を具体的に聞き出すのが、議員の仕事だと理解しています。

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

○町田市内企業が開発した水耕栽培メロン 生産地を増やして日本一決定戦を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

<編集発行>

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361(fax 兼用)

(市議)吉田つとむ後援会

yoshidaben@gmail.com



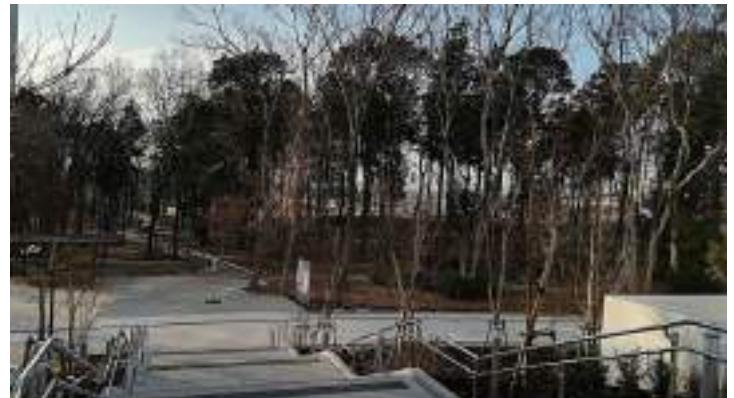
都市計画税の税率が下がらず0.27に決定

令和6年第4定例会の特徴的な議案で本会議討論

第4定例会最終日に、都市計画税の引き下げ議案(0.24%)で賛成討論を行いました。

今期も多数の住民請願が学校再配置計画、工芸美術館建設を巡って提出されました。石阪市長はそれを推進する立場ですが、無所属会派は、それに対して、慎重に、あるいは反対の立場を取っています。会派では、松岡みゆき議員（幹事長）と吉田つとむ議員が事案を分けて紹介議員となり、新井議員が本会議場での議案には反対討論、請願には賛成討論を行いました。

都市計画税の税率はそれぞれの地方自治体で税率を決める（0.3%以下）ことができ、町田市は20年来、0.24%に引き下げていましたが、3年前に0.27%にアップしていました。吉田は、会派の松岡議員と新井議員、さらに諸派の秋田しづか議員が3名で提出した都市計画税を今期の税率より0.24%に引き下げる議案に賛成討論、その他の会派が合同して出した元より値上げした税率(0.27%)の議案に反対討論を行いました。時代は国政も地方自治体も減税をトレンドにしています。こうした中で、地方自治をくみ上げていくべきだと考える次第です。今回は多数派になれずに残念です。



*開発が進む南町田グランベリー駅周辺で撮影

インターンシップで若者育成の貢献

町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ

京セラ電子投票機のデモ体験記

首都圏の議員では初めて京セラの開発拠点に招かれる



電子投票選挙のメカニズムは、紙の投票用紙に候補者名を記入する方法と異なり、モニターに表示された候補者名を選び、その中から一人を選択して確定をすれば投票完了となるものです。あるいは、適当な候補者が無いと判断した場合、確定せずに終了するという方法も選択肢としてありますがそれは白票に相当します。これによって、投票の不明票が解消されることになります。紙に候補者名を記入する現在の方法では、候補者名の文字が判別することが困難な時があり、それを開票立会人や選挙管理委員という第3者が判別するのですが、あくまで推量の域で決めることになります。1票を争う選挙が時折あり、裁判で争うこともありますが、電子投票では上記のような不明票の発生は解消されます。

また、紙の投票では、候補者の姓や名だけが記入されて、最終的には按分（あんぶん）する方法が採用されますが、電子投票では姓名を選択するので、按分（あんぶん）することはなく、どの候補者を選んだか投票の時点で確定することができます。実際に自分でも模擬投票体験をしましたが、投票の選択はとても簡単でした。タブレットのモニター画面に従い、投票をすると、データがメモリーに記録されます。



好評インターンシップは、欠かさず続いている

登記簿図書館の機能と需要

大田区蒲田に本社ビルを構える情報通信ネットワーク株式会社を訪ね、佐野秀光社長と面談しました。同社の登記簿図書館の機能は秀逸で企業の情報収集に多いに利用されているというでした。根本は法務局より、安く、早く、登記情報を入手できるというものです。ちなみに、法務局は税込み 331 円を必要とするが、登記簿図書館を利用した場合、最新の登記情報で 330 円、登記簿図書館が保有する登記情報の場合は 308 円で販売されるというものです。法務局所有の情報を登記簿図書館が購入しそれを安く売っているわけですから、理論上はマイナスが発生するはずですが、1 件の情報だけで済むということではなく、複数の人が登記情報を必要とする、あるいは一度に新規情報と保有情報の双方を顧客が必要とするということで、この商売が成り立つわけです。



ただし、当初の情報収集は地図情報のトップ企業のゼンリンと同じく、先行投資となる人手を使った膨大な情報をデータ化したことにつき、そこから登記簿情報を販売するという業務を企業として成り立ってきたのでしょう。不動産会社、あるいは銀行を始めとする金融機関への情報提供が事業になるというものでした。

◎議会で質問のベースになるものを取材するために、展示会の見学や先端企業の訪問を行っています。

◎学生のインターン中は、学生の希望を優先して視察先を決めています。

◎地方の文化施設や施策を訪ねて、町田市と比較する機会を作っています。

**若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)**

吉田つとむ

取材の私立中学生を町田市バイオエネルギーセンターに納

中学2年生(海城中高)の訪問取材を受ける

一般ごみを収集した際に、そのゴミの中にリチウムイオン電池が混入し、収集車やゴミ処理施設で火災が発生するニュースがたびたび起きており、町田市バイオエネルギーセンターでも重大な火災が発生し、大掛かりに内部の修繕が行われ、運転再開をしたところでした。

この問題に関して、私立中学校2年生(中高一貫の海城中学高等学校)から町田市議会の面談室でインタビューを受けました。本人の目的は、学校に提出する自由課題のテーマにこの問題を選定し、私がネットに掲載した記事を読んだ上での取材でした。また、私への取材とは別に行政側にもアポイントを自分で取り、双方を別々に取材する計画でした。私は、せっかくインタビューを計画しているならば、「その現場(施設のごみ処理工程と人が分別を手作業で行う現場)を見た方が良いのではないか」と提案し、施設側の協力で実施できました。

議員は行政に質問や質疑をするのが仕事ですが、今回は自分が生徒さんから取材で質問を受け、答える側になりました。質問では、危険なリチウムイオン電池の混入を防ぐにはどうしたらよいかと尋ねられ、市民(住民と外来者)に対して、ゴミの種類による分別内容に啓もう活動をすることが重要であることを述べました。一方で、大勢の人にこと細かな分別を求めるることは無理が生じる原因にもなり、将来的にはゴミの分別を簡略化する方法に切り替えることが必要だという見解を述べました。(次号に続く)



機械設備がある場所ではヘルメット着用が義務で、中学2年生は白Yシャツ姿。



ブログ

個人HP



メールは
左記を読み込
して送信



好評インターンシップは、第57期生が先行スタート。

インターン体験記① 古閑 永都

講義I 政治家の資質とその評価について

初回となる今回のインターンでは政治家及び議員の特徴や求められる素質、評価とはどのようなものかについて講義を受けました。



私立高校2年生 古閑永都(第57期生)

特に今般は政治家の公人としての覚悟、信頼に関わることをまとめさせて頂きます。先ず政治家の適正について、数名の見識者を例に様々な見解を得ました。政治学者のマックス・ヴェーバー氏は政治家に「情熱」「責任感」「判断力」の3要素を求めた一方、哲学者のカール・ポペー氏は明確な政治家像を問うこと自体を否定した上で危険な統治者の平和的な排除について持論を展開しており、入口を規制する前者と出口を整える後者で考え方、在り方が様々であることを学びました。

そして最も重要なことは、政治家は第三者に判断され、その評価無しには無力な立場であることをよく理解することです。評価を得る手段として街頭演説や広報物を用いるなど様々ある中で、昨今普及が目覚ましいSNSを活用する方が増えています。しかしながらこれは対象を比較的若年層に向いていることを意味し、政治への関心が薄い、選挙権の無い年齢であるなど根強い支持を得る要素としては弱く、組織票が大きくものをいう選挙活動においてSNSを主軸に置くことは憂慮が必要かと考えます。又、評価を受ける中で有権者はあくまで自身のものとして立候補者を選択します。人間に厳密性を求めるのは非常に難しいものであり、全ての有権者が正当な判断を下せるとは限りません。不測の事態や不遇なこと、全てに対応できる我慢強さと様々なジレンマを乗り切る一定のしたたかさが政治家として生きる上での必要十分条件なのではないでしょうか。

吉田つとむプロフィール

開かれた良識ある保守主義に立ち、納税者主権の視点から政治に取り組む。ネットを多用し、ユーチューブ「発見動画チャンネル」も運営し、それを愛称にする。個別対応形式のインターンシップが好評。「支持政党なし」で令和4年2月の市議選4期連続トップ当選。6期目に議長を務める。



SNS等で双方向発信
YouTube
1000万回再生をめざす



HP画面より
のリンクがあります



メール